

Title	編集後記
Sub Title	
Author	杉原, 史(Sugihara, Fuhito)
Publisher	慶應義塾大学理工学部
Publication year	2024
Jtitle	新版 窮理図解 No.40 (2024. 9)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	慶應理工の量子アニーリング：物理学と情報工学のフロンティアに挑む 物理情報工学科 田中宗 (准教授)
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000040-0010

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

環境と出会いに感謝

田中 宗

2020年4月に慶應義塾大学理工学部物理情報工学科にて研究室を立ち上げ、早くも5年目となりました。2024年3月には研究室第一期生をはじめて送り出し、研究室の様々なイベントがやっと一巡したと言ってもよいでしょう。また、このタイミングで『新版 窮理図解』で紹介される機会を頂き、これまでの私自身のキャリアパスについて振り返ることができました。そして、「現在の状況でなすべきことをなし、そこでの出会いに感謝する」という考えを持つことの重要性に改めて気づきました。

学生時代から現在の職に就くまで多くの紆余曲折がありました。しかし、持ち前のポジティブ思考で、心が折れずにこま

でこられたと思っています。もちろん、その過程は全くカッコいいものではなく、他者と比較することもたびたびありましたし、多くの人たちに心配や迷惑をおかけしてきました。ただ一つ大切にしてきたことは、周りの素晴らしい方々に支えていただきながら、その場その場で与えられた環境を活かし、なすべきことに懸命に取り組むことでした。

私が学生時代の頃に比べると現在は情報過多で、輝いているように感じられる他の人たちがまぶしく映りがちです。そのため人によっては、何か特殊な経験を積まなければならない、そのように焦ってしまう場合も多々あるでしょう。何かに突き動かされることは良いことですが、発想を変えて少し落ち着いて考えてみることも良いと思います。「現在の環境をフル活用したら、何か得られるのではないかと」。何らかの理由で、特殊な経験を積むことがで

きない場合もあります。そうした場合にもこの考え方は有効です。現在そこにある環境をフル活用することは一見地味ですが、それが様々なスキルを養うことにつながり、将来の仕事における力強い礎になると考えます。

私自身、現在は研究室を主宰する立場、各種の研究開発プロジェクトを取りまとめる立場、また、創業したスタートアップ企業QuanmaticのCTOといういろいろな立場で様々な仕事に取り組んでいます。これらの仕事をなんとか進めることができているのは、周りの方々に支えていただいていることに加え、これまでに置かれた環境を活かして経験を積んできたからだ実感しています。そして現在、素晴らしい環境に身を置かせていただいていることに感謝しながら、数年後、あるいはその先の未来の大きな仕事に繋がる礎を築いていきたいと思っています。

理 工 学 Information

創立100年に向けた行動目標として"KeiDGs"を推進しています



アーティスト：Ryoko Utsunomiya
アートディレクション：TokyoDex

慶應義塾大学理工学部・理工学研究科は、2039年の創立100年に向けた行動目標として、Keio Diversity, Equity, and Inclusion Goals (KeiDGs) を推進しています。KeiDGsは、近年その重要性が増しているDE&I (ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン) の概念を、塾祖・福澤諭吉の精神と照らし合わせつつ、理工学部・理工学研究科の教育と研究に落とし込んだ行動目標です。

この行動目標をもとに、理工学部・理工学研究科に設置されたワーキンググループを中心として、様々な施策やイベントの実施を活発に検討しています。理工学部・理工学研究科は、来る創立100年にとどまらず、さらにその先の時代においても輝き続けるために、KeiDGsを強力に推進してまいります。

KeiDGsに関する具体的な活動内容等については、下記のホームページをご確認ください。



<https://dei.st.keio.ac.jp/>

新版 窮理図解



No.40 2024 September

編集 新版窮理図解編集委員会
写真 邑口京一郎
デザイン 八十島博明、石川幸彦 (GRID)
編集協力 サイテック・コミュニケーションズ
発行者 村上俊之
発行 慶應義塾大学理工学部
〒223-8522 横浜市港北区日吉 3-14-1
問い合わせ先 (新版窮理図解全般)
kyurizukai@info.keio.ac.jp
問い合わせ先 (産学連携)
kll-liaison@adst.keio.ac.jp

web 版
<https://www.st.keio.ac.jp/education/kyurizukai/>

編集後記

この『新版 窮理図解』40号では、「量子アニーリング」「量子コンピューティング」を研究している田中宗准教授を特集しました。組合せ最適化の実用範囲や、その社会的影響に思いを馳せると、明るい未来に自然と夢が膨らむのではないのでしょうか。

インタビューや、学生からの「ちょっと一言」を通して、田中先生が研究室の一人ひとりに対して真摯に向き合われている様子が伝わるといいます。学生もそれに応えてか、研究室は先生を囲むように温かな雰囲気満ちていました。

(杉原 史)